

川崎市市制100周年記念

川崎市立図書館読書普及講演会

主催：川崎市教育委員会 令和6年10月20日(日) 会場：川崎市中原市民館

『100年 という 時間』



© Photo MORI Kiyoshi

かわさき
図書館
だより
vol.
65

特集：京極夏彦

読書普及講演会開催記念号

＜目次＞

- 1 読書普及講演会
- 2 図書館職員が会った京極作品
- 3 変わる！かわさき電子図書館
市制100周年記念事業
川崎フロンターレと本を読もう
- 4 イベント情報

京極 夏彦 氏 プロフィール

日本推理作家協会 監事、世界妖怪協会・お化け友の会 代表代行

1963(昭和38)年生まれ。北海道小樽市出身

1994(平成6)年 『姑獲鳥の夏(うぶめのなつ)』でデビュー

1996(平成8)年 『魍魎の匣(もうりょうのはこ)』で第49回日本推理作家協会賞
長編部門受賞以降、泉鏡花賞、直木賞など様々な賞を受賞

2007(平成19)年 川崎市も舞台となった『魍魎の匣』が映画化

2024(令和6)年 デビュー30周年『もののけdiary』、『了巷説百物語』、
『狐花 葉不見冥府路行』、『病葉草紙』を刊行

魍魎の匣

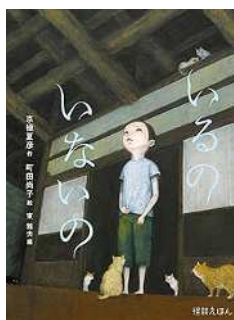
百鬼夜行シリーズ
京極夏彦/作
講談社(講談社ノベルズ) 1995



「憑き物落とし」京極堂が絡み
合った謎を解く、百鬼夜行シ
リーズ第二弾では作品の舞台として
登戸が登場します。何者かに線路
へ突き落とされてしまった少女
が運ばれたのは、巨大な箱型の
研究所。衆人環視のなか忽然と
姿を消した少女の捜索を依頼さ
れた探偵、バラバラ死体が箱に詰
められる殺人事件を追う刑事、
「御簀様」を祀る怪しい新興宗教
取材する記者、稀代の新人作
家が手掛ける不気味な『匣のなか
の娘』…。『ハコ』にまつわるいく
つもの謎が京極堂のもとに持ち
込まれる。

いるのいないの

怪談えほんシリーズ
京極夏彦/作 町田尚子/絵
東雅夫/編
岩崎書店 2012



おばあさんの古い家に住むことになっ
た男の子。男の子は天井の梁の暗闇が
どうしても気になってしまいます。お
ばあさんは気にしていないけれど…。
京極さんの文章に町田さんの絵がマッ
チし、いやおうなく恐怖感を盛り上げ
ます。「怪談えほん」にふさわしい展開
に背中のゾクゾクが止まりません。最
後は…？怖い京極ワールドにひたっ
てみませんか。また、この絵本に出てく
る古い家は、日本民家園にある古民家
もモデルになっています。民家園に
行った時には、天井を見上げてみると
いいかもしれませんね。

川崎市ゆかりの作品

図書館職員が 出会った 京極夏彦作品

ここでは、川崎市立図書館職員が出会った京極夏彦さんの著作及び関連作品を紹介します。

『地獄の楽しみ方』

講談社 2019

言葉や文字は不完全であるがゆえ、法律や契約書は事細かく書かれ、SNSは炎上し、言葉の行き違いで争いは起こり、小説は読む人により感じ方が違う。

それでも、私達はこの世という地獄を言葉や文字を使って生きている。

では、この世を楽しく生きていくにはどうしたらよいか？

小説家として、言葉や文字を扱うことを仕事としている京極夏彦氏が若い世代向けに行った特別授業です。

『どすこい（仮）』

集英社 2000

とある作家さんの怖い作品を読んだから、緻密な描写が忘れられなくなり「夜のマンションゴミ捨て場（特に雨の日）」に怖くて行けなくなった。そんな怖がりな私に「これは怖くないよ」と京極作品に詳しい上司が薦めてくれた作品が『どすこい』。装丁がぶ厚い、力士たち（もどきも）が暑苦しい、クセ強めの登場人物が超濃厚、今年の夏も暑い、そして私は熱中症に。京極さん、どういう心境でこの作品を書いたのかなあ・・・。

水木しげるファンとしても有名な京極先生。水木先生傘寿記念『水木しげる80の秘密』や、川崎市市民ミュージアムでも開催された展示会の図録『大水木しげる展 荒俣宏・京極夏彦プロデュース』など京極先生の水木先生へのリスペクト感満載ですが、中でもおすすめは『水木先生とぼく』（水木プロダクション／作 村澤昌夫／画 KADOKAWA 2022）。デビュー前の京極先生とアシさんとの間の「ビビビ」感や、『怪』創刊に至るまでの経緯がわかりやすく味わえます。

『死ねばいいのに』

講談社 2010

正直なところ、私は滅多に小説を読みません。文字をダラダラ読むのが苦手で、視覚的に楽しめる漫画やドラマの方が好きだからです。

そんな典型的な本嫌いの私がタイトルを一目見て思わず手にとったのが、京極さんの『死ねばいいのに』でした。初めはぼんやりと読んでいましたが、ページをめくるたびに登場人物に感情移入をしていく自分に驚きました。

「俺って本を楽しめる人間なんだ」そう思わせてくれた一冊です。

『ビジュアル&デザインで 愉しむ 京極夏彦の世界』

玄光社 2022

京極作品を読んだことが無い方でも、惹きつけられる作品の装幀に記憶がある方も多いでしょう。時代をを超えて描かれた妖怪や魍魎の画像、闇に浮き上がるなまめかしく存在感ある妖怪などの立体造形の画像による装幀だけでなく、イラストや立体造形などを使用せず文字の書体・大きさ・配置などのデザインで構成される装幀など美しく印象的な装幀の数々の紹介に加え、書籍の本文が組まれた版面に凝らされた技巧なども語られます。

カケル

キョウゴク ×

京極先生の魅力のひとつに対談があります。

僧侶の玄侑宗久さんに語る、子どもの頃のエピソードや、漫画家の水木しげるさんとの阿吽の呼吸を感じられる掛け合いなど。

いくつか読んでいくと、多様なお相手との対談によってお人柄が立体的に浮かび上がり、また、大切にされている考えは色濃く映し出されていきます。

所蔵冊数が少ないタイトルもありますが、図書館では「対談」に焦点を絞って作品を探すことが可能です。

『多生の縁－玄侑宗久対談集－』

玄侑宗久／著 文芸春秋 2004

『妖怪大談義－対談集』

京極夏彦／著 角川書店 2005

『姑獲鳥の夏』

百鬼夜行シリーズ
講談社ノベルズ 1994

何か面白い本読んだ？と聞いて、「京極夏彦」と即座に返されて興味がわいた。「怖い、ただ怖いとかじゃなくて、後からよく思い出してみると気が付く違和感というか、背中が冷えるような、」と。怪異とか妖怪とか謂われても、日々ハードボイルドやクライムアクションで修行中の身には縁のない別世界の話、それでもまあ、あれだけの即答なら最初だけでも、と手にしたのが「姑獲鳥の夏」、そこから先はもう言わずもがな。古くから伝わる言葉、呪い、怪異が、戦後の不穏な世相に浮かび上がる独特の世界線。ミステリー界に大きな衝撃を与えた一作目。